

「異分野融合による方法的革新を目指した人文・社会科学研究推進事業」
研究成果報告書

研究テーマ（領域）名		「都市災害の減災と復興のシステム構築 災害研究の新しい地平をめざす文理融合的研究」		
研究総括	所属機関	国立大学法人 東京大学		
	部局	大学院人文社会系研究科		
	役職	名誉教授	氏名	似田貝香門
委託研究費		10,000		単位：千円
平成21年度		平成22年度		平成23年度
2,600		3,700		3,700

研究の概要	
<p>研究目的；災害復旧・復興過程の短期的ライフライン整備、インフラ整備という工学系の個別技術に、被災者や被災地域の、生活・地域・社会の短期的、長期的復興、およびそれらへの同意・合意形成の場の形成やその仕組みの検討、という人文・社会系の研究を繋げることにより、研究の融合を図り、《防災～復興》の時空間的連続性の中で研究の全体的な位置づけの試み等の調査・相互討議を通じて、従来の原形復旧、改良復旧、原形復興の考え方を超え、地域や社会が新たに自立的に発展していくための 創造的復興 に関する新たな方法論の実現を目指す。こうした災害研究との融合により、人文・社会系研究分野を、社会的応用の学へ導くとともに、総合的な《防災 復興》の学の構築と、それを梃子とする 従来の社会発展論、成長論とは異なる、別様な社会形成論＝「復興」学の構築を目的とする。</p> <p>研究内容；上記の目的のため本プロジェクト設定した領域は、1) 創造的復興論 2) 合意形成 3 復興学＝日本の再生である。具体的には、神戸市、仙台市（3.11 当時震災前）への実態調査、実際の復興計画の検証（兵庫県・神戸市）、防災計画策定の汲み立て方検証（宮城県）等をおこないつつ、専門実務家、研究者等への hearing と共同討議のための研究会をおこない、このテーマにおける文系と理系との融合に努めた。</p> <p>以下具体的成果は、</p> <p>1. 創造的復興論 論の研究成果；この領域として（1）「事前復興論」、（2）コミュニティ再生・災害復興住宅〔居住政策〕（3）復興資金のあり方、を設定、調査・議論を通じて、復興のための「災害時経済」がほとんど研究されていない、これ基礎的な研究として今後おこなうことになった。市場以外に存在する生活経済や市場経済を介さないエコノミー、公共経済等）等を、広い意味でのエコノミーの重層状況や関係を、「災害経済 economy」という概念を指定する。この「災害経済」の構成、主体、時間的構成の変化を経験的に把握することによって、特に社会再生に関わる、公共部門、市場部門、社会的領域の特異な重層性を素描し、社会の仕組みとしての重層的 economy の構造を捉え、新しい社会の形成に関わる社会的領域の潜在的な対象と課題を論じはじめた。</p> <p>2. 合意形成論の領域では、「減災」の基本となる、建築物の構造安全の分野とインフラ整備の海岸工学を扱った。前者では建築物を社会資産としての認識が不可欠。そのため今後は、集団合議の可能性に考えていくべき。どのような安全レベルを設定するかは地域復興に欠かせない問題。その技術使用を勧案するには人々の生活のあり方、人々の意思の決定などを勧案する異分野融合が必要、との結論が、後者の海岸工学では、3.11 を経て、構造物が超過外力を受ける可能性を考慮して、それに対する構造物の粘り強い挙動を得るための改善策などに関する研究の必要性とともに、安全レベルをどこに設定し、住民が安全をどのように理解し安心感を得るかは、今後の地域復興に欠かせないテーマである。この要素を勧案した技術仕様を扱うには、心理や合意形成などの人文社会系と理工系との異分野融合が欠かせない、という認識の共有が共有された。</p>	